呼吸機能検査の精度管理実施率向上への取り組み

北海道臨床衛生検査技師会アンケート調査から

◎山本 雅史[1)]、石川 嗣峰[2)]、齋藤 和[3)]、沖野 久美子[4)]、阿部 記代士[3)]、伊藤 栄祐[5)]、三森 太樹[6)]、橋内 健一[7)]
北海道大学病院[1)]、医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院[2)]、札幌医科大学附属病院[3)]、北海道医療大学[4)]、旭川医科大学病院[5)]、NTT東日本札幌病院[6)]、北海道臨床衛生検査技師会[7)]

【はじめに】2013 年度に北海道臨床衛生検査技師会会員の所属する施設に対し呼吸機能検査の精度管理についてアンケート調査を行い、その実施率・認知度の低さから道内主要都市で精度管理をテーマにした基礎セミナーを実施した。2018 年度に再度同様のアンケート調査を行った。

【目的】基礎セミナー実施が、精度管理実施の動機付けの効果について検証する。

【方法】北海道臨床衛生検査技師会会員の所属する施設（538 施設）に対しアンケートを配布し集計を行った。調査内容は精度管理の実施の有無、項目、方法とその頻度などについて調査した。

【結果】200 施設から回答を得た。呼吸機能検査を実施しているのは 186 施設であり、精度管理を行っているのは、125 施設（67.2%）であった。2013 年度は、106 施設（60%）だった。精度管理を行っていない施設の理由は、「較正シリンジをもっていない：70.5%（59.2%2013 年度）」が最も多く、「方法がわからない：26.2%（38%2013 年度）」、「必要性を感じない：4.9%（12.7%2013 年度）」、「業務の負担：4.9%（5.6%2013 年度）」であり、2013 年度とほぼ同様の傾向であった。呼吸機能検査ガイドラインについては、「知っている：64%（52%2013 年度）」、「所持：20%（32.3%2013 年度）」との回答であった。基礎セミナーへの参加は、52 施設（28%）であった。基礎セミナー受講後について、52 件で変化があり、「精度管理についてスタッフで話合いを行った」20 件（38.5%）、「方法や頻度を見直した」9 件（17.3%）、「精度管理を行うようにした」6 件（11.5%）、較正シリンジについて「購入したいと思った」5 件（9.6%）、「メーカーへ問い合わせた」5 件（9.6%）、「購入した」4 件（7.7%）であった。

【考察】基礎セミナーが精度管理の実施率向上へ寄与したと考えられた。精度管理の方法も講演内容へ盛り込んだ結果、「方法がわからない」とした施設は、26.2%と 2013 年度の 38%より低下し、方法や頻度を見直した施設も 9 件あったことから一定の効果があったと考える。しかし、精度管理を行っていない施設が 32.8%あることから、さらなる実施率向上が必要と考えられた。